

<p>1 学校教育目標</p> <p>豊かな心で 勸興魂の実現をめざす 子どもの育成</p> <p>勸興魂 ～勉強はベストをつき、 運動はくたくたになるまで～</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>①学力向上の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分かる授業の実践 ○指導方法・形態の工夫改善 ○体験活動の充実 ○家庭学習の充実 <p>②豊かなこころの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の確立 ※凡事徹底(あいさつ、くつ・スリッパ揃え、整理整頓) ○支持的風土にもとづく学級経営 ○道徳の時間と体験活動を関連付けた授業の実施 ○ボランティア活動の推進 <p>③特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた指導の充実 ○「自己有用感」の醸成 ○特別支援学級の活用 <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着 ○課題解決型学習の推進 ○学習規律の確立 ○「自己存在感」の醸成 ○自己尊重の精神の育成 ○通級指導教室の活用
--	---

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・学級・学年経営力、授業力の向上	・学級経営案並びに複数担任経営案を立てる。 ・全ての教職員が年1回以上、指導案に基づいた研究授業・公開授業を行い、個々の授業力及び学校全体の教育力を高める。	・PTA総会までに学級経営案及び複数担任経営案をもとに、各学級各学年の1年間の指導方針を確認する。 ・校内研修の年間計画に全職員の研究授業を位置づけ公開授業として実践する。	A	・複数担任で学級経営案を確認しながら指導することができた。 ・校内研では「体づくり運動」と「自立活動」の研修を深め一層の授業力向上に努めた。	・複数担任制を活用した教材研究を行い、児童が自ら学びを振り返り、互いに学び合う集団づくりに取り組む。
教育活動	●志を高める教育	・夢や目標を描く教育の推進	・地域の偉人について学んだり、地域の人材について学んだりする時間の充実をはかる。 ・キャリア教育を意図した学習活動を学期に1回仕組む。	・「勸興読本」を活用して七賢人の生き方について学び、自分自身の夢や目標について考える学習を行う。 ・地域の人々が地域のために精力的に活動していることを学び、自分の夢や目標に向かって努力する大切さを体験的に学ぶ授業を行う。 ・キッズマートの取組を全校に広げ、各学年で活動を振り返る機会を設ける。	A	・3年は福祉、4年はキッズマート、5年は勸興学、6年は就きたい職業等に、取り組み、地域を学び、地域の将来を考える学習に取り組むことができた。活動について勸興まつり等で全校に広報することができた。	・「勸興読本」を手元に置き、七賢人の生き方について学び、発信していく学習に取り組む。 ・キャリア教育に係わる活動を見通したり振り返ったりして記述するキャリアパスポートを活用する。
教育活動	●学力の向上	・基礎・基本となる学力の定着及び思考力・表現力の向上	・全国並びに県の学習状況調査で明らかになった課題の解決を図り、前年度の結果を上回る。 ・体育科と算数科を中心に思考力・表現力を高める。 ・学校図書館の貸出を低・中学年共に130冊以上、高学年100冊以上と定めて、昨年の貸出数を上回る児童が80%以上になるようにする。	・研究主任、副主任と教科等の主任を中心に課題分析にあたり、具体的な指導改善を策定し、実践化を行う。 ・月曜日の朝、4年生以上に「すくすくテスト」を行い、火曜日の放課後「すくすくタイム」で基礎・基本の補充指導を行う。 ・金曜日の朝の時間にチャレンジタイムを設け、国語や算数における基礎・基本の定着を図る。 ・学習カードやノート指導、発問・板書計画について、指導・実践を継続し、定着へと結び付けていく。 ウ図書館の利用を位置づけたり、読み聞かせの機会を設けたり、学期毎に多読者を紹介する。	B	・学習状況調査結果の分析を全職員で行い、誤答傾向から課題解決に向けた具体的取り組みを考え、達成基準を超えることができた。 ・学期毎に多読者を称賛し、図書館利用促進を図った。全児童の約75%が、各学年の目標を達成できた。	・体育科の校内研究で培った対話的な学びを、他教科にも反映させ、関わり合いながら学ぶ集団づくりに取り組む。 ・学校図書館と学級担任で連携し、すき間読書を広める。
教育活動	○学校連携	・小中連携教育の推進 ・幼保小連携の強化	・小中三校の連携会議を年3回以上実施し、児童の中学校進学に対する不安を解消する。 ・参観や連携会議など、幼稚園や保育園との情報交換を年3回行い連携を深める。	・成章中、神野小との合同授業研、出前授業等や夏休みに子ども向けワークショップを開催し、教師間・子ども間の連携を図る。 ・学期毎に小学校と校区内の幼保との連携会議を開催する。 ・新1年生の学級編制に、幼保からの情報を活用する。	A	・小中交流では活動を楽しむことはできた。関わり方に課題が残った。 ・出前授業やワークショップ、部活動体験、ようこそ先輩などの交流を通して中学校進学への期待感を高めることができた。 ・年3回幼保小連携会議を行い、知り得た情報を学級編制に活用することができた。新学級担任が園等の様子を把握することに課題がある。	・小中交流の内容を児童生徒の関わり方の視点で見直し、成章中での部活動体験と兼ねて実施する。 ・新1年生の学級編制後に、幼保と小1担任で児童についての情報交換を実施する。
教育活動	○小学校低学年の学習環境の改善充実	・基本的な生活習慣の定着 ・学力向上 ・学習習慣と基礎・基本の定着	・立腰タイムを行い集中力を高めると共に、学校生活のきまりや学習のきまりを定着させる。 ・国語科・算数科における基礎・基本の定着を図る。	・目標が達成できている児童を称賛し、他の児童の実践意欲を高める。 ・国語科や算数科の基礎・基本的なスキルを向上させるため、指導方法を工夫・改善する。 ・授業の終末や小单元ごとに小テストを行うなどして、基礎的・基本的学習内容の理解の様子を確かめる。 ・つまづきが見られる児童には個別に指導を行う。	A	・1学期に学校のきまりを繰り返し指導することで学校での生活を落ち着いて過ごさせることができた。 ・基礎・基本の定着を目指して個別指導も随時行った。 ・具体物の操作を積極的に使うことで児童の理解を深めることができた。	・複数担任が連携して学習指導や生徒指導を行う。特に、漢字や計算の小テストは分担して準備し、学習内容の更なる定着を図る。
② 豊かな心の育成と特別支援教育の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ・人権・同和教育の充実 ・異年齢集団による活動の深化	・道徳の時間の充実や体験活動・ボランティア活動等への取り組みを通して、豊かな心を育む。 ・地域や保護者の方に道徳の授業を公開する。 ・立ち止まって気持ちのよいあいさつができる子どもを80%以上とする。 工異年齢集団活動「はと活動」で、互いを思いやる気持ちを育む。	・年間計画に基づいて授業実践し、年間計画の改善を行う。 ・地域や学校で行う体験活動と道徳の時間との関連を図った授業を行う。 ・授業参観やフリー参観デーの時に、「ふれあい道徳」の授業を年1回以上公開する。 ・立ち止まって、元氣よく挨拶を行うという視点であいさつ運動を進める。 ・ひびきあいタイムの計画的運用を行う。 ・共遊の時間において、児童が振り返る時間を確保し、活動を振り返らせる。	A	・年間計画を見直し、教科書を活用した道徳の授業を確実に実施した。 ・学習参観等で、地域や保護者の方にふれあい道徳の授業を公開できた。 ・ひびきあいタイムを毎月実施し、集会では、児童の人権意識を高めることができた。 ・はと活動では、活動後に各グループで振り返りの時間を確保し互いを思いやる発言を尊重できた。	・地域や行事との関連を図り、体験的な授業や学年で共通した題材を取り扱ったふれあい道徳の授業実践する。 ・児童の心を一層耕すひびきあいタイムを目指し、新たな教材を整備する。

教育活動	●いじめの問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止等の体制の構築 いじめに対する共通理解と取り組むための共通認識の獲得 いじめの未然防止 いじめの早期発見 いじめに対する早期対応 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ事案の未然防止のためにアンケート調査や外部専門機関と連携を深める。 「いじめ・命を考える日(毎月1日)」を中心に据えて、児童の人権意識を高める。 「いじめ問題」に関する校内研修を行い、職員の人権意識を高め、実践力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ防止対策委員会」などを随時開催していじめ事案の可能性のあるものとして慎重に協議を行う。 毎月1回いじめ・いのちアンケートを実施し、担任、管理職が目を通し、記述内容に応じて児童や保護者への聞き取りを行い、いじめの早期発見・早期対応に努める。 全校朝会や学年朝会等で、「いじめ問題」に関する指導を行う。 毎週木曜日に情報交換会を行い、児童について共通理解する時間を設定する。 QUテストを実施し、児童や学級の様子を把握する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ事案発生後は速やかにいじめ防止対策委員会を開き情報共有を行い、認知後には事案に応じた校内体制を整えた。 毎月の「いじめ・いのちのアンケート」を実施し、児童の様子の変化について、早期発見することができた。 木曜日の情報交換会では、気になる児童について、職員間で共通理解を図ることができた。 QUテストの解析により、学級の児童の様子を把握し、2学期以降の学級経営に生かすことができた 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止・早期発見のためにアンケート調査及び、日頃の観察を丁寧に行う。 学級活動や道徳の授業などの活用、いじめを許さない学校のために実施している弁護士やスクールカウンセラーの啓発授業を次年度も継続する。 QUテストを2回実施し、PDCAサイクルに基づく学級経営の改善を図る。
教育活動	○特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援が必要な児童への支援体制の確立 特別支援教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する全ての児童の個別の支援計画を作成する。 職員間で積極的に情報交換を行い、支援の方法を探る。 教職員全員が、特別支援教育に関する知識を身につけ、適切な対応について共通理解する。 工児童・保護者に対して啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する児童の個別の支援計画を作成し、木曜日の情報交換会の時間に記入したり、情報を共有したりする。 校内教育支援委員会を必要に応じて開催する。 特別支援教育の研修会を年間を通して計画的に位置付け、最新の情報を得たり、適切な対応について共通理解したりする。 「ふれあい給食」や「カレンダー作り」、「勤興ゆうびん局」等を通して児童に啓発を行う。 特別支援教育の推進のために、PTA総会や新入学説明会等で説明をしたり便りを保護者に配付したりして、保護者への啓発に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 週一回の情報交換会を継続し、気になる児童の記録時間を確保した。その情報を全職員で共有し、支援方法を話し合った。 校内支援委員会(計6回のべ26人)を開き、支援方法を協議し、専門機関との連携をとった。 特別支援教育や自立活動に関する職員意識を高めるために、職員研修を5回行った。 特別支援学級の児童と全校児童との交流活動を継続的に実施することができた。 特別支援教育の啓発便り「はーとふる」を発行し、一部内容をHPに掲載したり、学校便りや新入学説明会で特別支援学級や通級指導教室の説明を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育研修会を開き、担当者の資質向上を目指しながら、指導支援の方法や自立活動の進め方等についての研修を深める。 必要に応じて専門機関との連携をとり、よりよい支援ができるようにする。 新入学説明会等に加えて、PTA講演会などを活用した、啓発活動に取り組む。 特別支援学級児童と全校児童との交流活動を継続的に実施する。

③ 地域に開かれた学校づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 校務の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 定例の業務を効率的に行う。 校務の整理や役割分担を明確にして、行事の精選に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> データの整理を行い、業務をデータで引き継ぐと共に、課題や改善点を明確にすることができるようにする。 電子掲示板を活用し、情報共有の効率化をはかる。 部長を中心に、行事を1つ精選することを念頭において行事の整理や役割分担の見直しを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> データを整理し、必要なものをすぐに活用できるようにした。 行事ごとに内容を精選し、役割分担を明確にすることで、スムーズに進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事前に、その内容を見直し、質の維持や向上、業務改善の観点を踏まえて提案する。
学校運営	○学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標および経営ビジョンの周知 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の周知率を95%、児童の周知率を85%とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、ホームページ、PTA総会、学級懇談会、地域ふれあい協議会などを通じて保護者や地域に知らせる。 「勤興魂」の合言葉と、「あいさつ、ありがとう、安全」の意識を高めるように全校朝会等で児童への周知・定着を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標や勤興魂等の周知率は、保護者が98.0%、教職員が100.0%と非常に高く、目標を達成できた。また、「勤興魂」の合い言葉は親しみやすく、97.2%の児童がその意味や大切さを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> お便りや懇談会、ホームページ等を効果的に活用して、保護者の周知率95%以上を維持する。 全職員が、朝会や集会等で児童に具体的な行動目標を示し具現化を図る。
教育活動	○開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会、保護者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の共催を通して相互交流を密にする。 各学年で少なくとも1単元は地域に密着した総合的な学習の時間や、地域教材・地域人材を活用した活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域合同のふれあい運動会を開催する。 勤興まつりや公民館との合同行事を推進する。 総合的な学習の時間では、年間の指導について詳細な計画のもと地域学習の展開を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 勤興ふれあい大運動会では、家庭・地域と協力しながら取り組むことができた。次年度のプログラムや協議内容などについて反省も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を焦点化して、学校内や地域の方との話し合いでの解決を目指す。 総合的な学習の時間のねらいを明確にして、地域との関わり方をコーディネートする。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 運動に親しむ習慣の育成 望ましい食習慣の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日進んで体を動かそうとする児童を育てる。 朝食をとって登校する児童の割合を90%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回ペースで「勤興体操」を行う。 運動委員会を中心に行う全校遊びを実施したり、体づくり運動を狙った外遊びを奨励する。 「保健便り」や「給食便り」等を通して早寝・早起き・朝ご飯の啓発を進める。 学校栄養職員や養護教諭との連携を図り、学級活動や教科指導などで食の大切さや健康についての意識向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度の勤興体操や新しい遊具の導入、全校遊びなどで児童が体を進んで動かす姿がよく見られた。体育の授業以外で体を動かしていない児童もいる。 毎月おたよりを作成し、規則正しい生活習慣の大切さを啓発できた。5年生を対象とした朝食実態調査では、朝食をとって登校する児童は100%だった。全校に実施した生活がんばり表の結果、早寝ができてると自覚している児童は全体の5~7割程度であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に体を動かす楽しさを味わわせるために、児童の意欲を喚起する運動、学習課題、問い等の授業改善を行う。 各種おたよりで「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性を継続して伝える。早寝が定着するよう、学級活動等で生活習慣を振り返り、規則正しい生活習慣の重要性を学ぶ学習を仕組む。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

- ◇学力向上の推進のために、佐賀県及び全国学力・学習状況調査の結果によって明らかになった課題を全職員で解決できるよう、全学年での学習指導に力を入れてきた。校内研究で体育科を中心に児童のかかわり合いを意識した授業づくりを行った。体づくり運動に取り組みながら、児童同士がかかわり合いながら学ぶ姿が見られ、学力向上へとつながった。また、「チャレンジタイム」を全学年、「すくすくテスト」を4年生以上で実施することにより、基礎学力の定着を図ることができた。さらに、本校の教育の特徴の一つである複数担任制を生かし、担任が協働して児童を多面的に見取り、指導を行うことができた。
- ◇志を高める教育を行うために、地域や保護者と連携した教育活動が不可欠である。このことについては、保護者、職員共に肯定的で、地域ぐるみで児童を育てているとの意識が高い。また、児童も連携した行事や活動を楽しみにしており、学校や地域を愛する心が育った。
- ◇学校の教育活動について、今後も学校だよりやホームページ、PTA総会、地域のふれあい協議会など、機会あるごとに具体的な取組みや手立てを紹介してきた。その結果、地域や保護者の学校に対する理解と協力を得ることができた。
- ◇毎週木曜日に、全職員が気になる児童について情報交換をする時間を確保し、共通理解をすることができた。毎月、いじめ・いのちアンケートを実施し、気になる事案については本人への聞き取りや保護者への連絡を通して早期対応を行い、心豊かな児童の育成といじめのない学級づくりの実現に努めた。
- ◆基礎学力の定着、思考力・活用力の一層の向上と新学習指導要領に対応した指導方法・教材の開発等の工夫改善に次年度も真摯に取り組む。また、学級担任と研究主任や指導方法改善担当との連携をより有効に機能させ、個に応じたきめ細やかな学習をいっそう進めていく。
- ◆図書館の貸出数の目標設定について職員の理解を深め、読書ボランティアの活用、読書活動を生かした心の教育など、図書館教育を一層推進していく。
- ◆特別支援教育のさらなる推進のため、特別支援学級特別支援教育に関して専門機関との連携をとり、さらによりよい支援体制が構築できるように工夫していく。特別支援学級児童と全校児童との交流をこれまで実施してきた様々な取組みを継続して推進していく。自立活動の実践的研究にも取り組む。